

山行報告 伊那谷 高鳥谷山、高鳥屋山 山菜山行

山行日： 5月19(土)~20(日) ともに晴れ

山名： 伊那谷 高鳥谷山(たかずやさん)1331m、高鳥谷山(たかどやさん)1398m

参加者： 柘植(CL)、村尾(SL)、小倉(山菜指導一元会員)、大木(食担)、鶴田、杉山、石井、高地、加藤、渡辺純、神崎、井上志(記録)

1日目： 千葉 6:30—双葉 SA8:30—駒ヶ根 IC—11:00 高鳥谷神社—12:15 高鳥谷山山頂(山菜採り)
13:20—14:00 高鳥谷神社—露店こぶしの湯—買い出し—17:00 駒ヶ根キャンプセンター

2日目： 起床 4:30—駒ヶ根キャンプ場 6:15—鳩打峠 7:30—9:00 高鳥屋山山頂(山菜採り) 9:30—10:00 鳩打峠—清流苑(入浴) 13:00—帰葉

CL 柘植さんの強い意志の元、今年も山菜好きのメンバーが集まった。19日の雨予報がなかなか変わらないため計画書を作り直すこと4回に及んだ。3日前に、初日は長野県駒ヶ根市高鳥谷山(たかずやさん)と2日目同飯田市の高鳥谷山(たかどやさん)に決まった。よく似た名前の山でも距離は相当離れている。字も烏(からす)と鳥(とり)の字が違い読み方も違うのに現地へ行くと鳥の字は使われていなくてどちらも鳥であるのでびっくりした。

初日、現地に着くころは雨もあがる。車3台で細い道を抜けて高鳥谷神社に着き、無事下山と豊作を祈念して用意を整えて登山始めた。けっこうな急登で新緑の中のんきな歩きというわけにはいかないが、あまり時間はかからないと聞いていたのでそれなりながらがんばった。1回休んでもう一汗かいたところで広々とした頂上に着いた。



高鳥谷山は駒ヶ根駅の北東



登山口から少し歩くと神社



高鳥谷神社にお参り



なかなか急な登山が続く

烏のはずが高鳥谷山の看板は高鳥谷山山頂???でそんなことは気にしない組はせっせと山菜を探し、探す。コシアブラよりタラの芽のちょっと成長したところがたくさん採れて記念撮影。残雪の中央アルプスも南アルプスも微笑んでいた。



左から甲斐駒ヶ岳、千丈岳、北岳



中央アルプスを眺めながら物思いにふける大木さん



山頂記念写真



雲がとれて中央アルプス主峰群が姿を現す



小倉さんオリジナル料理



手際よく料理ができていく

古びた避難小屋がある山頂を辞し、下山後、神社脇の石垣で居合わせた子供たちと石垣登りに興じた。スーパーで食料品の買い出しをして、露天こぶしの湯で入浴後に駒ヶ根キャンプセンターへ。タラの芽、葉っぱ、ヨモギまで次々に衣をつけて揚げていく。すぐにソラマメのゆでたのやイノシシ肉料理もできて食べてはオイシイ！を連発して豚汁をすすりながら幸せの夜は更けていく。ちば山のレジェンドに学ぶことは多い。

夜中雨音かと思ったが近くの川の流るるの音で、山中での目覚めの心地よいこと！
もう早朝でもそう寒くはなく順次起きだして朝食の準備をする。食担しを囲むチームワークですぐに整い楽しい朝食タイムとなる。もう1人のレジェンド鶴田さんが大鍋を洗い始めると皆なにがしかを洗い、来た時よりきれいにして予定より15分早い出発となる。1日目と同じように細い道をたどり鳩打峠に着いた。ノバラの小枝の皮をむいて食べた後、登り始める。またも急登で遅れないように歩くが1時間半で蕨がっぱいの頂上下に着いた。



高鳥屋山は飯田 IC の西方



高鳥屋山登山口の様子



山菜はありそうでない



山頂直下でワラビの群落を発見



山頂での憩いのひと時



高鳥屋山の山頂記念写真



避難小屋の横から下山



つぼみももう少しで満開

スタートを同じにして適宜おみやげを摘んだ。ここにも地形を利用した小屋があった。頂上で早いランチをして下山となった。まつかわ温泉清流苑で入浴後食事をしたが、半数が注文した○●麺はオイシイと言えなかった。施設はよかった。精算後解散した。盛りだくさんの内容でCLと皆様に感謝します。

井上志津子（記録）